

都道府県別にみた死亡の状況 (要旨)

—平成12年都道府県別年齢調整死亡率—

1. 平成12年の年齢調整死亡率は、男 634.2, 女 323.9
男女とも平成7年より大きく低下している。

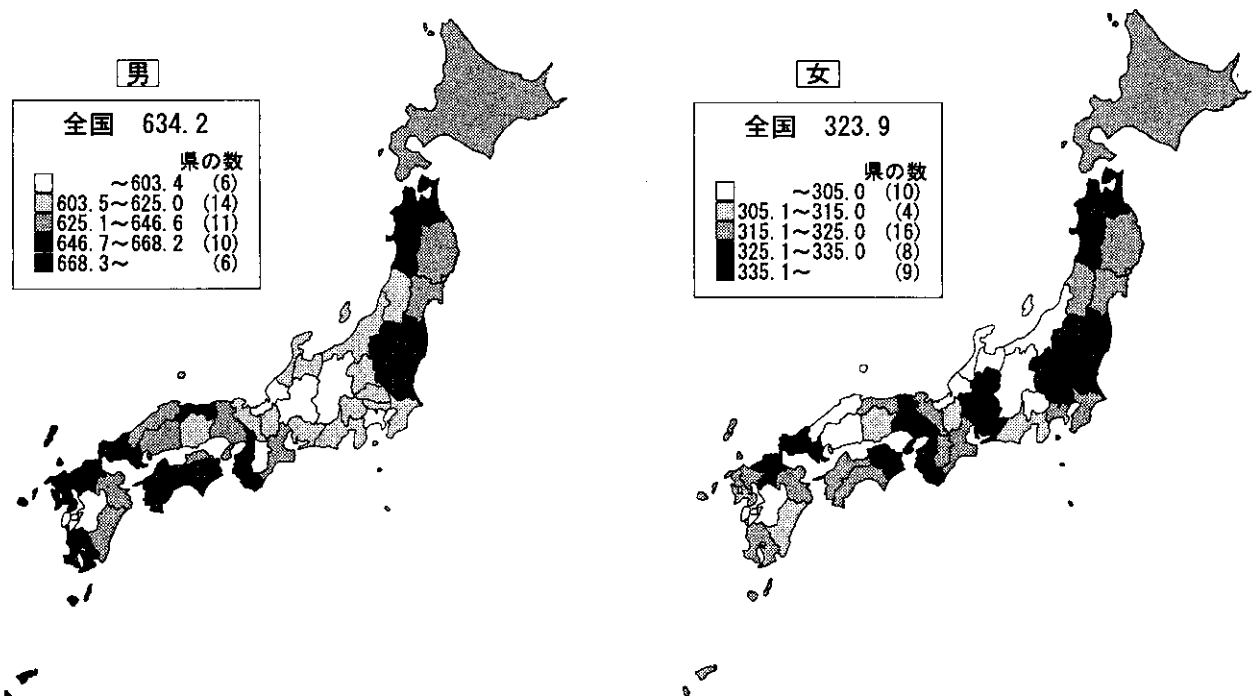
	[男]	[女]
平成12年	634.2 (855.3)	323.9 (679.5)
平成7年	719.6 (822.9)	384.7 (664.0)
差 Δ	85.4 (+32.4)	60.8 (+15.5)

() 内は粗死亡率

2. 男は中部で低く、女は中部から北陸にかけ低い傾向
死亡率を都道府県別にみると

[男]		[女]	
低位5県	高位5県	低位5県	高位5県
長野県 (579.5)	青森県 (755.9)	島根県 (286.9)	大阪府 (347.8)
福井県 (589.0)	秋田県 (693.0)	沖縄県 (288.0)	青森県 (346.5)
岐阜県 (589.7)	大阪府 (683.8)	長野県 (294.1)	栃木県 (343.2)
熊本県 (591.1)	和歌山県 (680.8)	福井県 (295.6)	愛知県 (337.5)
神奈川県 (602.1)	佐賀県 (673.1)	新潟県 (299.6)	徳島県 (337.2)

都道府県別年齢調整死亡率 —平成12年—

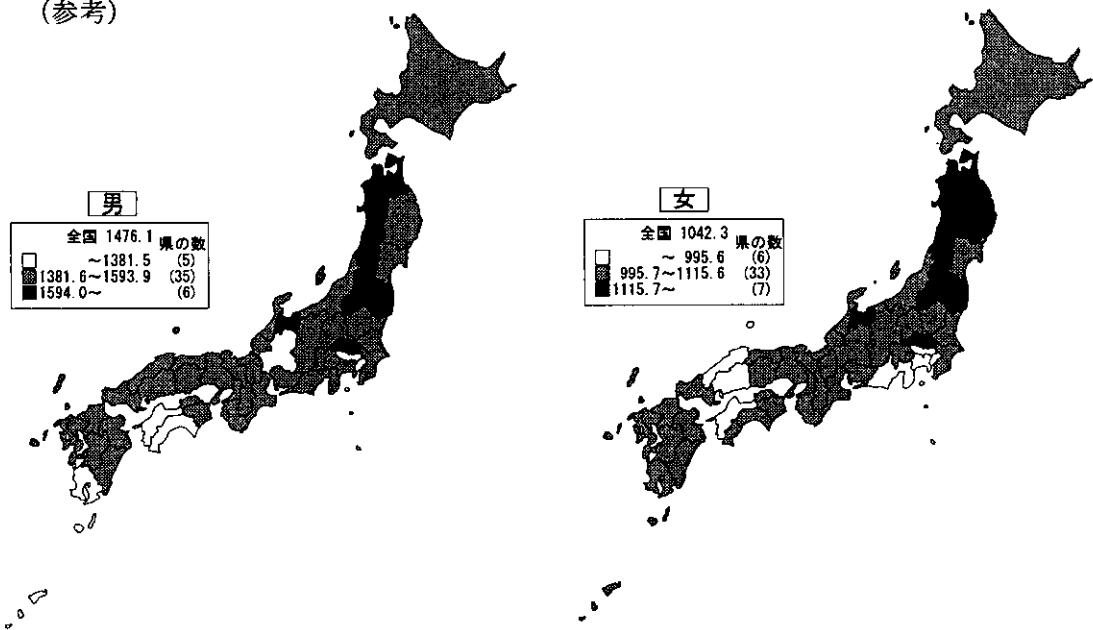


3. 地域差が縮小し、東高西低から地域分散へ

男女とも昭和35年は西日本に死亡率の低い県が多く、東日本に死亡率の高い県が多かったが、全国的な死亡率の低下とともに、顕著な地域傾向もみられなくなっている。

都道府県別年齢調整死亡率 —昭和35年—

(参考)



注1：昭和35年には沖縄は含まない。

注2：地図の階級分け 2.の平成12年の図の□は□, □, □, □は□, □, □は□に対応している。

4. 悪性新生物は中部で低く、脳血管疾患は関東北部、東北が高い

(1) 悪性新生物

- ・ 男は中部で低く、九州北部、近畿、東北で高い傾向がある。
- ・ 女は中部、九州南部で低く、九州北部、近畿、関東で高い傾向がある。

(2) 心疾患

- ・ 男女とも日本海側で低く、近畿、関東で高い傾向がある。

(3) 脳血管疾患

- ・ 男女とも各都道府県の差は小さいが西日本に低い県が多く、関東北部、東北に高い傾向がある。

(参 考)

1. 都道府県別にみた死亡の状況は、「人口動態統計」をもとに昭和35年から5年（国勢調査年）ごとに算出しており、今回が9回目となる。
 2. 「人口動態統計」とは、我が国の人口の動向を恒常的に調査するものであり国勢調査とともに我が国の主要統計の一つとなっている。
この調査は明治32年から現在の方法で調査が行われるようになり、出生・死亡・死産・婚姻・離婚の5種類の事象について、戸籍法等による各種届書を基にして調査している。
また、調査の結果は「人口動態統計」（年報、確定数）や「人口動態統計」（月報、概数）として公表している。
 3. * 年齢調整死亡率（人口10万対）
通常の死亡率（粗死亡率）で都道府県別に比較すると、各都道府県の年齢構成に差があるため、高齢者の多い県では高く、若年者の多い県では低くなる傾向がある。
このような年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように、年齢構成を調整した死亡率である。なお、調整には昭和60年モデル人口を基準人口としている。
- * 粗死亡率（人口10万対）
死亡数を人口で除した死亡率